

1.早期発見、早期フォロー体制の継続

◎5つの専門相談

発達相談(心理士による相談)・OT相談(作業療法士による相談)・ことばの相談(言語聴覚士による相談)・発達クリニック(小児科医による相談)・発達支援クリニック(児童精神科医による相談)を実施。

実績数は減少傾向(表1)。28年12月から作業療法士1名産休中で、通園・通学先や発達相談等で支援の方向性を保護者や関係機関と確認・連携し、OT相談継続を個々に調整した。

出張OT相談では、保健福祉センターを活用し相談を継続した。18歳を経過したケースについて、基幹型相談センターに移管し、支援が継続中。

就学前と就学後の年齢割合は、昨年度と同傾向(表4)。

◎遊びの教室(小集団親子教室)

2クール(前期と後期各1クラス、各11回)開催。実人数14名。全員が何らかの発達支援相談を利用中で、個々の状況に応じて療育や医療紹介を行った。

◎のびのび教室(保護者が子どもの行動の見方を学ぶプログラム)

27年度の運営委員会の提案により、教室名(前:ほめ方教室)を改名して実施。発達支援相談と療育を利用している保護者に案内。前期2名、後期は個別対応で3名の利用であった。

◎母子保健事業との連携

随時ケース連携を実施。心理士と作業療法士が乳幼児健診、作業療法士が親子教室に参加。

(表1)発達支援相談利用者数

年度	参加実人数			相談別参加人数											
	男子	女子	合計	発達相談		OT相談		言語相談		発達クリニック		発達支援クリニック		相談参加	
				実	延	実	延	実	延	実	延	実	延	実	延
H27年度	203	81	284	146	188	189	262	63	81	6	6	7	11	411	548
合計	<b>192</b>	<b>71</b>	<b>263</b>	<b>157</b>	<b>174</b>	<b>152</b>	<b>197</b>	<b>43</b>	<b>63</b>	<b>3</b>	<b>5</b>	<b>3</b>	<b>3</b>	<b>358</b>	<b>442</b>

(表2)新規相談の相談種別実人数

	発達相談	OT相談	言語相談	発達クリニック	発達支援クリニック	合計
H27年度	67	50	23	0	3	143
(割合)	46.9%	35.0%	16.1%	0.0%	2.1%	
<b>H28年度</b>	<b>82</b>	<b>38</b>	<b>10</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>134</b>
<b>(割合)</b>	<b>61.2%</b>	<b>28.4%</b>	<b>7.5%</b>	<b>2.2%</b>	<b>0.7%</b>	

(表3)発達支援相談の最終フォロー人数

	相談継続	終了	
		医療紹介	終了
H27年度	208	26	50
(割合)	68.3%	9.6%	22.1%
<b>H28年度</b>	<b>177</b>	<b>9</b>	<b>77</b>
<b>(割合)</b>	<b>67.3%</b>	<b>3.4%</b>	<b>29.3%</b>

(表4)年齢別相談実人数

	0才児	1才児	2才児	3才児	4才児	5才児	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中1	中2	中3	高1	高2	高3	
H27年度	10	49	67	57	65	42	11	1	8	3	2	4	1	0	1	0	0	1	
(割合)	3.1%	15.2%	20.8%	17.7%	20.2%	13.0%	3.4%	0.3%	2.5%	0.9%	0.6%	1.2%	0.3%	0.0%	0.3%	0.0%	0.0%	0.3%	
H28年度	8	25	44	54	55	46	15	7	1	3	1	2	2	0	0	0	0	0	
(割合)	3.0%	9.5%	16.7%	20.5%	20.9%	17.5%	5.7%	2.7%	0.4%	1.1%	0.4%	0.8%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	88.2%						11.8%												

(表5)相談経路別実人数

	経過者	保護者	健診					その他
			健診	保健師	保・幼	学校	保健所	
H27年度	141	8	76	8	33	3	0	15
(割合)	49.6%	2.8%	26.8%	2.8%	11.6%	1.1%	0.0%	5.3%
H28年度	162	10	62	2	15	2	0	10
(割合)	61.6%	3.8%	23.5%	0.8%	5.7%	0.8%	0.0%	3.8%

  

	健診				
	乳児前期	乳児後期	1.8健診	2.5健診	3.5健診
27年度	0	5	33	25	13
	0.0%	6.6%	43.4%	32.9%	17.1%
28年度	0	3	20	18	21
	0.0%	4.8%	32.3%	29.0%	33.9%

2. 児童発達支援事業の充実

資料参照(P5~6 つくし園より報告。)

3. 保育所・幼稚園巡回相談事業の継続と、学童期への連携

園巡回延数は昨年度と同傾向(表6)。2ヶ所の保育所で、OTが運動器の観察及び指導を実施。学校期連携の延件数は昨年度と同傾向である(表7・8)。

(表6)園巡回相談数

	園部		八木		日吉		美山		合計		運動プログラム
	園数(延)	児延数									
H27年度	12	63	6	28	4	16	4	26	27	134	27
H28年度	9	38	5	26	5	26	6	30	25	120	18

(表7)学童期への連携数 (個別相談後の新小学1年生ケース連携・参観)

	合計	
	学校数(延)	児童数(延)
H27年度	27	113
H28年度	25	89

#### 4. 就学後の支援体制の強化

放課後児童クラブ、学校巡回、不登校児童の訪問実施。

(表8) 就学後支援数 (新小学1年生以外)

	合計	
	学校数(延)	児童数(延)
H27年度	12	34
H28年度	<b>16</b>	<b>48</b>

#### 5. 関係機関との連携充実

支援ファイルと移行支援シートの配布。

病院同伴受診、ケース会議等を通じて情報共有実施。

保育所・幼稚園・小学校・放課後等ディサービス・市役所職員等参加し、連携交流会(学習会と交流)を開催。

(表9) 支援ファイル配布数

	中学生	小学生	5歳児	4歳児	3歳児	2歳児	1歳児	計
H27年配布数	0	0	0	2	0	0	0	2
H28年配布数	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>7</b>	<b>1</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>13</b>
全保有数	<b>5</b>	<b>80</b>	<b>10</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>101</b>

(表10) 移行支援シート活用数

	保育所→小学校	小学校→中学校	中学校→高校
合計	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>

(表11) 南丹市こども発達・療育支援輸送事業集計

	利用者登録人数	送迎先別利用件数(保育所別)				
		園部	城南	八木中央	八木東	日吉
H27年度	7	3	1	1	0	1
H28年度	<b>10</b>	<b>2</b>	<b>4</b>	<b>2</b>	<b>1</b>	<b>1</b>

(表12) 職員による研修実施状況

内容	回数	職員	対象	人数
パパ・ママ講座	1回	作業療法士	保護者	計36名
小学校PTA	1回	作業療法士	子ども・保護者	計39名
保育所・幼稚園保護者会	1回	心理士	保護者	計30名
ファミリーサポート会員講習会	2回	心理士	保護者	計3名
保育所幼稚園連絡協議会	1回	作業療法士	保育士	計9名
保育所親子参観	1回	作業療法士	子ども・保護者	計50名